

常任委員会活動レポート

所管事務調査

総務文教

○平成16年7月21日
 ・行政組織及び職員に関する事項

総務課の職員から、幕別町の行政組織機構や職員数等について説明を受けた。

町職員の数は、定数として245名であるが実数は228名であり、行政改革大綱の目標値236名を達成している。なお、来年春の退職予定者は6名で、採用予定は1名である。

職員の研修は、職場内研

修、派遣研修等が行われており、平成15年度は延べ419名が受講している。

委員からは、①企画室だけで行っているスタッフ制の他の部署への導入、②管理職の女性の登用、③民間企業での職員研修等について質問がされ、①スタッフ制は組織が大きくなると困難、小規模なところは可能、②女性の管理職の登用は十分とは言えないが、意識・資質の問題もある、③1～2年目の職員の接遇を中心とした研修を行っている



活発な質疑が交わされた委員会

産業建設

○平成16年8月25日
 ・下水道に関する事項
 ・水道に関する事項

上下水道関係の施設である幕別町浄化センター（猿別）、札内配水池（日新）、排水ポンプ場（札内みずほ町）と、町外の十勝川浄化センター（帯広市）、なかとかち浄水場（中札内村）を視察した。

なかとかち浄水場を運営する十勝中部広域水道企業団では、札内川ダムに約30万人分の水道用水をたくわえており、帯広市や幕別町など7つの市町村に水を供給している。

町内には、明野、札内東、リバーサイド幕別の3つの工業団地があるが、近年の景気の低迷により、売却率は87%にとどまっている。

進出企業への融資条件は十勝管内でトップレベルにあるものの、企業からの引き合いも少なくなってきたおり、企業誘致が難しい状況にある。

委員からは、誘致した企業の雇用状況や、近隣市町との誘致面での条件比較についての質疑がなされた。

民生

○平成16年7月16日
 ・環境衛生に関する事項

十勝環境複合事務組合が運営している「くりりんセンター」と「十勝リサイクルプラザ」を視察した。

十勝環境複合事務組合は14市町村で構成され、し尿の処理、ごみの処理・処分、下水の処理を共同で行っている。

くりりんセンターは、そのうちの7市町村が利用しており、ごみの焼却、破



施設概要について説明を受ける委員

砕、選別等を行い、そこから出るごみの焼却熱を利用して発電し、電力会社に売電している。なお、ごみの搬入量は、平成15年度から減少傾向にある。

十勝リサイクルプラザは9市町村が利用しており、一般家庭から出されるペットボトルなどの資源ごみの選別・圧縮・梱包・保管をし、「再商品化資源物（リサイクル原料）」として「財団法人日本容器包装リサイクル協会」に引き渡すまでの業務を行っている。



なかとかち浄水場を視察